

社会福祉学研究科長
社会福祉学部 教授 藤岡 純一

北欧の人々の文化

スウェーデンは福祉社会として知られる。それが形成された基礎には、協同と自立の思想がある。協同と自立は相反するように思われることが多い。果たしてそうだろうか。

「協同」とは、ともに心と力をあわせ、助けあって仕事をすることである。今から100年ほど前まで貧しい農業国であったスウェーデンでは、家族や近隣で助け合うことが必要であった。教会を中心に村が形成されていた。イギリスから一世紀も遅れて産業革命を果たした後も、労使の間で激しい対立を克服する協定が結ばれた。

1928年に社会民主労働党の党首ハンソンは、国を一つの家族にたとえ、「国民の家」構想を発表した。家といっても戦前日本のような家長が絶対的な存在であったわけではなく、平等で、思いやり・協調・支援の精神のあるのが良い家とされた。その後、社会民主労働党が政権の座に着き、福祉社会建設にむけて歩みだした。

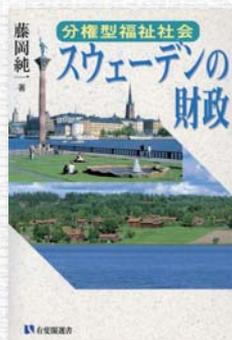
「自立」は社会の近代化とともに生まれ成長する。スウェーデンで自立が本格的に定着するようになるのは、1960年代に女性が仕事を得て生活力を持ち始めてからである。その頃から社会福祉が発達し、さまざまな分野で女性の社会進出が実現した。現在スウェーデンではほとんどの家庭が共働きである。そして働くほとんどの人が税金を払う。

一方、家庭で男性が家事・育児を分担するようになった。育児休業（育児休業手当は直前の給与の80%）をとるのは母親だけではない。父親も交代でとり、子どもと一緒に親子センターを訪問して育児の相談をしたり遊んだりする。

自立は個性を尊重することに繋がる。日本では、横並びやみんなに合わせる態度が美德とされることが多い。しかし、スウェーデンでは、他の人との違いは大切なことである。異なる側面を持つ人たちが協同して、豊かな生活をおくる社会が形成されている。



スウェーデンの生活者社会
—地方自治と生活の権利—
DATA 藤岡純一 編著
青木書店
1993年10月刊



分権型福祉社会
スウェーデンの財政
DATA 藤岡純一 著
有斐閣
2001年10月刊



Junibackens öppna förskola
(ユニバックエン・オープン・プレスクール) (親子センター)

ゼロ歳児の保護者の指導、相談など子育て支援を行っている。育児休業をとった父親も多く、育児家庭のミーティング・ポイントになっている。

研究紹介



看護学部 助教 佐々木 新介

日本私立看護系大学協会平成24年度看護学研究奨励賞および日本看護技術学会第10回学術集会大会賞を受賞しました。

病院で採血をされた経験はありますか。その時、腕にゴムバンド（駆血帯）を巻かれたはずですが。駆血帯は血管を拡張させ、針を刺し易くするために巻かれます。では、どのくらいの強さ（駆血圧）で駆血帯を巻けば、血管は最も拡張するのでしょうか。実は、この疑問に対する明確な答えはありませんでした。私の研究では、超音波診断装置という医療機器を用いて、血管拡張と駆血圧の関係を示しました（図1）。

これは、とても基礎的な研究です。この研究成果により、明日の看護や医療が変わることはありません。しかし、研究成果を少しずつ積み上げることにより、何年後あるいは何十年後に、もしかしたら新しい看護援助が提供されるかもしれません。たった1回の採血ですが、受診の度に採血を必要とされる患者さんには、大きな苦痛かもしれません。「駆血帯を適切に巻く」ちょっとした工夫ですが、そのちょっとした工夫が患者さんの苦痛を少しでも軽減できるのならば、私たちはその努力を惜しんではならないと思います。

研究は、未知への挑戦でもあります。得られた研究成果を多くの方に還元できるよう、私自身これからも日々精進してまいります。そのためには、先行研究や文献を調べられる図書館が必須であり、私も本学の図書館を頻回に利用させて頂いております。図書館は英知の宝庫です。将来を担う学生の皆さん、図書館を活用し一緒に勉強しましょう。

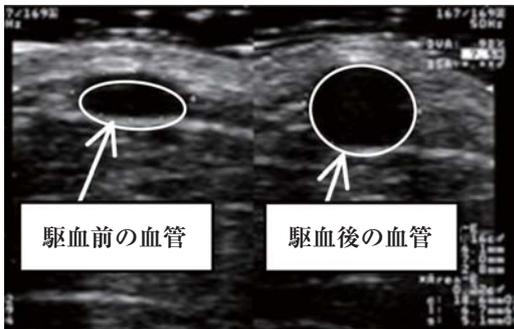


図1：超音波で見える血管の画像

各賞の概要

◆日本私立看護系大学協会 看護学研究奨励賞

本賞は、日本私立看護系大学協会加盟校の看護学研究者が前年度に公表した学術論文のうち、看護学研究に貢献したものに対して表彰されるものです。

受賞論文：Relationship between Tourniquet Pressure and a Cross-Section Area of Superficial Vein of Forearm.

著者：Sasaki S, Murakami N, Matsumura Y, Ichimura M, Mori M.

収録誌：Acta Medica Okayama 66巻1号,page67-71, (2012)

※論文の内容は、Acta Medica OkayamaのHPより閲覧可能です。

URL：<http://escholarship.lib.okayama-u.ac.jp/amo>

◆日本看護技術学会 学術集会 大会賞

本賞は、日本看護技術学会の学術集会で発表された優秀演題に対して表彰されるものです。

受賞演題：末梢静脈穿刺に効果的で簡便な上肢温電法の検証

—加温による上肢血流量・血管拡張への効果—

新任教員による おすすめ本



DATA

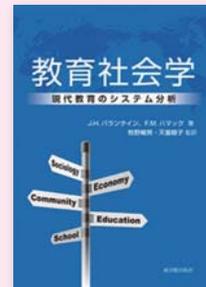
小澤勲 著
岩波書店
2003年7月刊

痴呆を生きるということ

社会福祉学部 特任教授 香川 幸次郎

認知症は「いったん正常に発達した知的機能が後天的な脳の器質性障害により持続的に低下し、日常生活や社会生活が営めなくなっている状態」と定義されている。しかし、ここで一步立ち止まり、認知症を患っている人はこの病をどのように体験しているのだろうか。著者はタイトルにあるように、認知症を生きるその姿を認知症の人々の視点から、我々に問いかけてくれている。

私たちは自分自身を理解すること、まして人を、病を抱えた人を理解することは難しいが、共感する力を持っている。この本を通して、認知症の人々の体験世界を肌で感じ取り、人間理解が少しでも進むことを願っている。



DATA

J.H.バランタイン・F.M.ハマック 著
牧野楊男・天童睦子 監訳
東洋館出版社
2011年10月刊

教育社会学 —現代教育のシステム分析—

社会福祉学部 講師 高橋 均

本書は、アメリカの著名な教育社会学者であるバランタイン (Jeanne H. Ballantine) らが、初めて教育社会学を学ぶ大学生や大学院生を対象に書いた「The Sociology of Education: A Systematic Analysis」(第6版 2009年)の翻訳書(全訳)です。教育社会学は独特の用語が多いことなどもあって難解と敬遠されがちですが、本書は、社会学の視点から教育問題に対してどのようにアプローチするかを、豊富なデータを用いながら、具体的にわかりやすく説明しています。分厚く読み応えのある本書で、21世紀の学校教育の課題や教育を取り巻く社会的・制度的変化への理解を深め、視野をさらに広げてみてはいかがでしょうか。

友よ

看護学部 准教授 鈴木 千絵子

著者は佐賀の鍋島藩で代々家老職を務めた祖先をもち、祖父は建築家のフランク・ロイド・ライトの親友で天皇の美術顧問を務めたという実業家です。本のタイトルの「友よ」の「友」とは、著者が生きる中で心の糧とした「詩」であり、この本はその45編を紹介しています。生きていく中で自分の目標を見失ったり、悩んだり躓いたり…そんな時、文学や詩に触れて答えを見つけ、また勇気をもたらしたことはないですか？どの詩も美しい日本語とリズムで書かれていて読むと爽やかな風に吹かれるように癒されます。また著者自身の詩の解説や人生観も興味深く新鮮な気持ちになりました。慌ただしい日々の中、時にはそんな「詩」に触れてみてはいかがでしょうか。



DATA
執行草舟 著
講談社
2010年12月刊

星の王子さま

社会福祉学部 講師 原子 純

砂漠に飛行機で不時着した「ぼく」が会った男の子。それは、小さな自分の星を後にして、いくつもの星をめぐるから七番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった。「星の王子さま」を読んだことがない人でも、この本の存在は知っていることでしょう。「おとなは、だれも、はじめは子どもだった。(しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない。)」子どもの頃を思い出しながら…、子ども時代とは違う感覚で…、それぞれの思いで読んでみてはいかがでしょうか？そして、Le plus important est invisible を、大学生の今だからこそ、考えてみてはいかがでしょうか。



DATA
サン＝テグジュペリ 著
内藤 濯 訳
岩波書店
1972年9月刊

いのちに寄り添う。 —ホスピス・緩和ケアの実際—

看護学部 助手 岡本 華枝

日本人の3人に1人が「がん」で死ぬ時代に、自分らしい安らかな最期を迎えるには。「日本のホスピスの父」であり、これまで2500人を看取ってきたホスピス・緩和ケアの第一人者が、旅立つ人と見送る人におけるメッセージ。この本を読んでいると「寄り添う」という言葉がとても大きく心に響きます。あのとき、もっと寄り添っていたらと後悔しないように…。医療や介護関係者を狙っている学生の方に必読の一冊です。

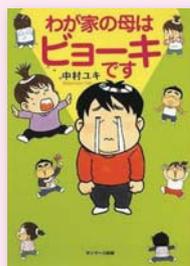


DATA
柏木哲夫 著
ベストセラーズ
2008年7月刊

わが家の母はビョーキです

看護学部 助手 石井 薫

名前は聞いたことがあっても、遠い世界のことだと思いませんか。統合失調症は、がんと同じで100人に1人弱がかかる、誰でも発症の可能性がある病気です。これは、大阪府出身の著者が4歳で、実母が統合失調症を発症してからの20年間が当事者ならではの視点で、時にシリアスにまたコミカルに「セキララ」に語られたマンガです。教科書を読むだけでは理解の難しい、統合失調症の症状や、疾患を抱えた人やその家族の思いがストレートに伝わってきます。分かりやすく面白いため、続編も出ています。実習にきっと役立ちますよ。



DATA
中村ユキ 著
サンマーク出版
2008年11月刊

新任教員による 著書紹介



DATA
藤田倫子 編著
ふくろう出版
2007年1月刊



DATA
藤田倫子 編著
ふくろう出版
2007年1月刊

◆ライフサイクルと健康 ◆よくわかる・実力がつく 看護実践に必要な問題解決の考え方

看護学部 特任教授 藤田 倫子

本書（『ライフサイクルと健康』および『よくわかる・実力がつく看護実践に必要な問題解決の考え方』）は、学生のみなさまに活用して頂きたく、藤田が編著しました。すべての物事は、基礎的・基本的な考え方があり、原理・原則に基づいた方法の展開が重要と言われます。看護職を目指す若く、理想に燃えているあなたに、看護の対象（ひとのライフサイクル）と、看護の目的（健康の保持・増進・あるいは最期の看取り）と、看護の方法（看護過程の展開）について、基本の“キ”をわかりやすく、興味をもって頂けるように解説したつもりです。前任校においても学生たちには好評でした。短時間で読めること、大きな字で読みやすいこと、日常生活の中で誰もが考えることというのがその理由のようです。一読していただければ嬉しく思います。さらに興味や関心をもった方は藤田研究室までどうぞ。



DATA
涌谷桐子 著
日本ラクテーション・
コンサルタンツ協会 監修
ニライ社
2008年12月刊

ドクター-KIRIKOのおっぱい育て —母乳で育てたいお母さんのために！—

看護学部 助手 川崎 千春

元産科医である涌谷桐子氏が母乳育児中の母が一度は持つようなよくある悩みを取り上げ、母向けの文章として書かれた一冊です。赤ちゃんを母乳で育てる事、乳房を含ませる事のこの2つを含めた子育てにかかわるすべての事を「おっぱい育て」と称しています。授乳姿勢のポイント、母乳不足感や母乳量の目安、乳汁分泌促進の方法、乳頭トラブル時の対処、母乳と薬や妊娠中の授乳、離乳食開始後の母乳についても解りやすくアドバイスされています。母乳育児中の母や対象の家族だけでなく、母子のケアを学ぶ学生の皆さんのためにもある一冊だと思っておりますので、実習に際し是非読まれることをお勧めします。

『新しい日本の歌4』

副学長
図書館長
社会福祉学部 教授 古瀬 徳雄



DATA 古瀬徳雄 作曲
マザーアース
2012年11月刊

「新しい日本の歌4」は、鈴木賀恵の詩「いつか」「ほぐれる」、岸本康弘の詩「命の扉」の3作品が楽譜になった。タイトルからは、詩の内容をほのめかしているが、つかみどころのない、正体のない、いろいろなことを想像させてくれる。

「いつか」は、うつろいゆく霧を見る3人のこどもの、束の間の印象をすばやく描きとどめている。この詩の持つ主観性を、切り取って捉えるのではなく、瞬間の多様な変化に紡ぎ合わせ、時のかなたへ消えてゆく存在を、旋律として永遠のながれに持続させた。「ほぐれる」は、地下の不可視の世界のいのちのうごめきを、変化の瞬間に密着しながらも、想像力をもって、華麗な変二長調により祝祭へと変貌させた。

「命の扉」の詩は苦闘の中で綴られているが、生きる命の扉は、外から開けてもらうのではなく、裡から外へ向かって「自ら開けていくものである」と叫んでいる。必要とする前向きなエネルギーを、アフタービートのジャズ風な動きで蓄え、自発性に点火させ、スナッフしながら一歩を踏み出すことにした。これら新曲は、兵庫県立芸術文化センターで3人の演奏家により初演されたものである。

『はじめて学ぶ 学校教育と新聞活用 —考え方から実践方法までの基礎知識—』

社会福祉学部 教授 勝田 吉彰



DATA 小原友行・高木まさき・
平石隆敏 編著
ミネルヴァ書房
2013年3月刊

NIE (Newspaper In Education)。教育の場に新聞を活用してゆこうという運動で、新聞社からのさまざまな支援や学会での活動など、ノウハウを得る仕組みも充実してきている。そんなNIEの入門書として、日本NIE学会のメンバーを中心とした執筆陣によって著された本書には小中高大とさまざまなステージにおける教育法のノウハウが満載されている。この中で、勝田は大学におけるNIEについて、本学と前任校での経験を中心に執筆した。福祉職養成の場で、「高齢者のこころの理解」をテーマに、新聞紙面から高齢者を取り巻く社会情勢・高齢者が怒っていること・高齢者が欲しがっているもの等を読み解くノウハウを伝え、実際に新聞を読み込みながらレポートを作成する過程など紹介した。こうした過程で、高齢者との異世代コミュニケーション力も涵養される。また、記事を家庭に持ち帰り家族とのディスカッションをおこない理解を深める「ファミリーフォーカス法」というノウハウがあるが、前任校での留学生教育でこれを応用した過程も紹介している。

本書は、執筆陣の小中高の先生方も、「匠の技」を惜しげもなく披露しておられる。本学に新設される発達教育学部の先生方にもお役に立てる一冊と信ずる。

『現場に根ざした介護と福祉 —アクション・リサーチからの発信—』

社会福祉学部 准教授 谷川 和昭



DATA 目黒輝美・谷川和昭・
小沼経子・石川立美子 監修
大学教育出版
2013年4月刊

本書は私を含む4名の監修者、総勢26名の執筆陣で編纂したものである。

誕生の経緯は、2012年に、社会福祉法人はなさきむら（兵庫県佐用町）が介護福祉士ファーストステップ研修を全国社会福祉協議会から受託することに端を発する。研修の講師・受講者・助手はこの研修をアクション・リサーチとして自らの活動と位置づけ、ICFの視点を共有し、出版を目標として協働しながら執筆に取り組んだ。

理論的な支柱となったのは、E.T.ストリンガー著／目黒輝美・磯部卓三監訳『アクション・リサーチ』（フィリア、2012年）である。この訳書は各参加者の参考書として共有された。アクション・リサーチには、統一した定義は存在しないが、ひと言でいえば、「良くしたい」という願いを背景として、自分を変える、組織を変える、社会を変えるための研究方法のことと言ってよいだろう。

本書にはアクション・リサーチについての概説も含まれており、かつ本書自体がアクション・リサーチによって生まれた成果物であることが特長と考えられる。介護記録や図表、事例も豊富で、第1章の「福祉の職場における創造的な問題解決をめざして」から最終の第10章「職場の分析事例」までの全10章で構成されている。

参加者全員に何らかの成長や希望をもたらした本書のご一読を、ぜひ皆さまにもお薦めしたい。

『福祉行財政と福祉計画』

社会福祉学部 准教授 谷口 泰司



DATA 杉岡直人 編
みらい
2013年1月刊

本書は社会福祉士養成課程のテキストとして作成されたものである。社会福祉の専門職として活動していく際には、多かれ少なかれ行政の福祉部門とのやり取りや、地方自治体の施策推進の指針となる計画を意識せざるを得ない場面が生じることがある。これらの仕組みや実際について、専門職として押さえておくべき要点を簡潔にまとめている。

自身は第4章「福祉計画の目的と意義」を担当し、様々な福祉計画に共通する点とともに、各計画の特徴等を概説している。

テキストとしての性格上、読者に何らかの感動や共感を与えるものではなく、また法制度等の解説や事実の記載が中心であり、問題提起も最小限に抑えたものであるため、学術的な価値も乏しいものである。一方で、地域の特性に応じた諸活動を展開しようとする場合には、その基礎を提供する内容となっている。

『性的虐待を受けた子ども・性的問題行動を示す子どもへの支援 —児童福祉施設における生活支援と心理・医療的ケア—』

社会福祉学部 准教授 八木 修司



DATA 八木 修司・岡本正子 編著
明石書店
2012年12月刊

平成24年度において虐待を受けた子どもは約6万7千人（通告された件数）となり、前年度と比較して約7千人増加している。その内、児童福祉施設に入所する子どもは約10%である。深刻化する子ども虐待の中でも、性的虐待を受けた子どものケアは繊細な配慮を要する。本書はそうした性的虐待を受けた子どもや性的問題行動を示す子どもの施設ケアに焦点をあてて具体的な対応を著している。

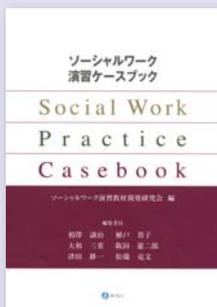
執筆者は左に記した編著者の他、児童福祉や医療施設の現場において長年にわたって勤務している児童精神科医、臨床心理士、社会福祉士などの専門職である。

内容は虐待の通告から児童相談所での対応と支援、児童福祉施設に入所してからの生活支援や心理ケア（個別・集団）、家庭復帰や自立に関するソーシャルワークについての展開を示している。また終章に子ども虐待を受けた子ども全般における生活支援や心理ケアの実践上のポイントを記載している（八木執筆）。

巻末に児童福祉施設における生活支援と心理ケアのガイドライン・チェックリストや子どもを理解するためのアセスメントツールなども掲載している。児童福祉施設の職員やそれを目指す学生に読んでもらいたい一冊である。

『ソーシャルワーク演習ケースブック』

社会福祉学部 講師 藤原 慶二



DATA ソーシャルワーク
演習教材開発研究会 編
みらい
2012年12月刊

この本は社会福祉士養成課程の「相談援助演習」で活用することを目的に作成された事例集である。相談援助演習に特化した事例集は数少ない。5つのChapterから構成されており、中でもChapter2～4にある事例は「相談援助実習」の学生を意識し、実習先で想定されるケースが取り上げられている。学生が実習前に学ぶ事例演習であることが考えられている。

Chapter2では相談援助に関わる概念についてインシデントをとおして具体的に理解する。これを踏まえ、Chapter3～4ではさまざまな個別支援やコミュニティワークの事例をとおしてプロセス・モデル・アプローチなどの相談援助の技術を理解する。これらは「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」のなかで学ぶソーシャルワーカーの役割や倫理、相談援助の理論と方法を理解するための手助けとしても活用することができる。

加えて、学生に限らず経験の浅い実践者がさまざまな領域や施設・機関で働くソーシャルワーカーの多様性と、そこで行われる相談援助業務の実際を知るための導入事例として用いることも可能である。

事例を素材にして学生や実践者がよりよい支援方法を習得できるように活用していただければ幸いです。

私の出会った一冊

『大切な忘れもの ー自立への助走ー』

現代社会において大きな問題となっている親子関係。この本はそのことについて大きく考えさせられる一冊です。皆さんは今まで家族にどのようにして育てられてきましたか。そして、これから親になった時、きちんと子育てできる自信はありますか。あなたが親で、わが子が不登校になったらどうしますか。多くの親はどうにかして学校に行かせようとすると思います。

では、子どもの立場だったらどう思いますか。学校へ行ってもいじめられたり、友達がいない状況で学校に行きたいと思いますか。その子にとって学校へ行く意味はあると思いますか。

また、自分は正しいと思って教育しているつもりでも、子どもが反抗するようになった時、よく考えてみると、それは自分自身が子供の頃に親から受けていたのと同じことをしていた。自分は親に言えなかったが、わが子は親に伝えようと反抗している。そのことに気付いた時の親の気持ち…など、もう一度自分を見つめ直すことのできる一冊です。

本の題名通り、「大切な忘れもの」を多くの方がしていると思います。まだ、家庭を持つということは想像できないかもしれませんが、ぜひこの本を一度読んでみてください。きっと皆さんのためになると思います。



DATA 横川和夫 著
共同通信社
1997年6月刊

ぼくの
おすすめ!



社会福祉学部 3年 板野 博文



DATA 伊坂幸太郎 著
実業之日本社
2005年12月刊

『砂漠』

話は仙台の大学に入学した北村の視点で、大学1年の春、2年の夏、3年の秋、4年の冬、そして卒業の春について書かれています。タイトルの意味は、気楽な学生生活をオアシスに、学生生活の外を砂漠にたとえたものです。

おもな登場人物は、冷静な男子北村、自己主張が激しく周囲から浮きまくりの男子西島、無口でおとなしい女子で超能力を持った南、美人な東堂、ムードメーカーであり女つたらしの鳥井。同じクラスに東西南北を名字に持つ人間がそろっているのだから何か意味がなければおかしいと言う、西島の考えで麻雀をしたことから交流が始まります。この同じ学部5人を中心として、ボウリング、合コン、麻雀、通り魔犯との遭遇、預かり期限が切れる直前の犬の救出、超能力対決などの出来事をともに経験し、それらの経験が、互いの絆を深め、それぞれを成長させていきます。

当然のことだけど、学生で過ごす季節はあっという間にすぎて、もう二度と訪れることのない時間だということを感じさせられました。この話の登場人物の5人は、特別な超人でもなく(南の超能力はあくまでも個性ということで)世界を変えるほどの力を持った人でもなかったので、現実によく感じられ共感できる話でした。きっと読んでみたら文中に出てくるセリフで心にグッとくるものがあると思います。また、懐かしい思い出を思い出すのではないのでしょうか。全ての学生、学生だった方へ読んでいただきたいです。

わたしの
おきにいい!



看護学部 2年 高瀬 愛子

兵庫県立赤穂高等学校との交流

図書館開放

本学の夏期休暇期間にあわせて、8月6日(火)から8月30日(金)の期間、赤穂高等学校の生徒のみなさんに開放しました。約7万点の図書資料の閲覧・貸出、DVDやCDの視聴、閲覧室での学習など、高校とは違った学習環境を提供しました。

これを機会に、大学で勉強するということ、社会福祉や看護の仕事について興味を持ち、関西福祉大学への理解を深めてもらえれば嬉しいです。

インターンシップ

8月6日(火)から8日(木)の3日間、赤穂高等学校「図書部」の生徒6名(男子4名、女子2名)が、インターンシップに訪れました。大学図書館の業務について説明を受けたあと、返却本の整理や逐次刊行物の受入、新着図書の装備・データ登録を行いました。3日間という短い期間でしたが、どの仕事にも関心を持ち、楽しそうに取り組んでいました。

高校生からは「高校の図書室では普段体験できない仕事で、とても新鮮で楽しかった」「高校とは違い、おすすめの本が複数冊あったり、パソコンの貸出などの工夫があり、驚いた」「高校でも逐次刊行物の受入・配架などをやってみたい」「初めて知ることが多く、とてもおもしろかった」などの声がきかれました。

また、「定期的にインターンシップをする」「大学祭や文化祭でも交流を持つ」などの意欲あふれる提案も寄せられました。今後も交流を深めながら、地域に貢献できる活動を合同で企画していきたいです。

今回初めての実施でしたが、体験したことや気づいたことを、今後の図書部の活動に活かしてください。



普段図書部で
やっていることと
違うことができました!



勉強にもなりました!

図書館の改修工事を行いました

【PCスペース】

デスクトップパソコンを増設し、空間を区切ることによって、より研究やレポート作成に打ち込めるスペースに生まれ変わりました。



イメージ図

【グループ学習室】

グループ学習室には映写兼用ホワイトボードを設置し、プレゼンテーションエリアとして、また、少人数でのゼミにも対応した演習室としての機能を整えました。



イメージ図

この改修工事に伴い、館内のレイアウトも変更しています。より使いやすく便利になった図書館を、ぜひご利用ください。

兵庫県大学図書館協議会研修会の開催

平成25年2月22日(金)、兵庫県大学図書館協議会研修会を関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにおいて、当番館である本館が主担となって開催しました。

「大学図書館は電子書籍をどう取り扱うか」

講演「電子書籍と出版文化の未来—流通基盤構築と出版デジタル機構の役割」

植村八潮氏(専修大学文学部教授、出版デジタル機構会長)

講演「電子学術書利用実験から考える—学生と教育の変化と図書館の役割」

入江伸氏(慶應義塾大学メディアセンター本部課長)

落下防止テープ貼り付け



閲覧室の書架の上2段、視聴覚資料架の上1段に図書落下防止テープを貼り付けました。これにより、地震などの際に書棚から図書が落下することを防ぎます。

絵本棚設置

紙芝居棚の隣に「絵本コーナー」を設置しました。絵本にはいろいろなサイズの本がありますが、一般の本と別置したことで探しやすくなりました。

防犯カメラ設置

みなさんに安心して図書館を利用していただけるよう館内各所に防犯カメラを設置しました。

EBSCO講習会

昨年度から開催しておりますEBSCO社のデータベース講習会を、本年度も4月24日(水)に開催し、多数の教員・大学院生の方々に参加いただきました。データベース講習会は今後も定期的開催する予定です。開催については掲示板にてお知らせします。

グループ学習室利用

【在学生】

新たにプロジェクターとノートパソコンおよび関連図書を設置しています。共同研究やプレゼンテーションの練習等、話し合いながら利用できます。2週間前から予約も可能ですので、ご利用の際は図書館カウンターにて申し込みをしてください。

【卒業生】

卒業生の方もグループ学習室を利用できるようになりました。校友会事務局までお問い合わせください。

図書館ガイダンス

本年度より、プロジェクターを使用し、図書館の利用方法や文献検索の方法を、より分かりやすく説明できるようになりました。随時申し込みを受け付けていますので、受講希望の方は図書館カウンターにて申し込みをしてください。

編集後記

今回の図書館だよりでも、先生方と学生さんより著書やおすすめ本を紹介していただきました。社会福祉や看護について学ぶみなさんにとって勉強になる本、人生において大切なことを教えてくれる本などさまざまです。紹介された本はすべて図書館で貸し出していますので、ぜひこの機会に読んでみてください。

図書館は、夏期休暇中にリニューアル工事を行い、パソコンや書棚が増えました。また、この春から、グループ学習室にプロジェクターが設置されています。このように、図書館はより便利で快適な空間へと、常に進化しています。学生のみなさんには、それぞれの学習・研究に合わせて有意義に活用していただけることを期待しています。

今年は暑さの厳しい夏でしたが、地域の高校生へ図書館を開放しインターンシップを実施したことで交流の機会を持つことができ、とても充実したものとなりました。今後も地域に貢献できる図書館にしていきたいと思います。

図書館の利用方法について、疑問や質問があれば、遠慮なく図書館職員に声をかけてください。少しでもみなさんのお手伝いができるよう頑張りますので、どうぞよろしくお祈りします。(S)